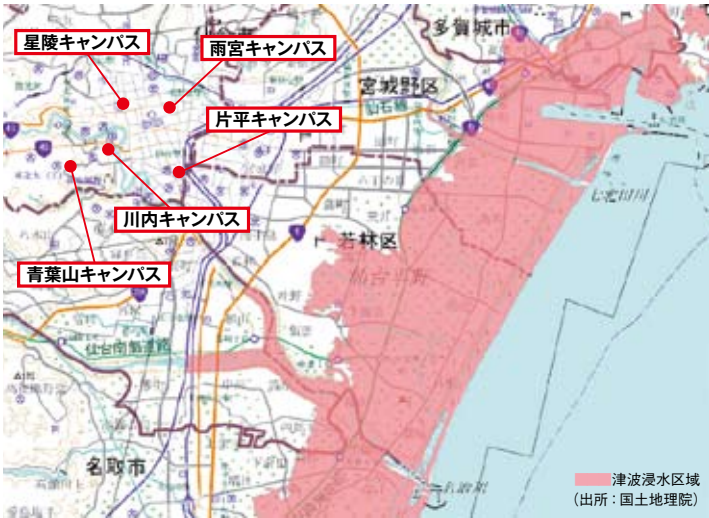


東日本大震災

2011年3月11日、午後2時46分、マグニチュード9.0、最大震度7という日本の観測史上最大級の地震が東北地域を襲いました。

沿岸部の津波被害は甚大なものでありましたが、東北大学が位置する仙台市街地は電気・水道・ガス等の供給停止によるインフラ被害が顕著であったものの、建物の倒壊等はほとんどありませんでした。



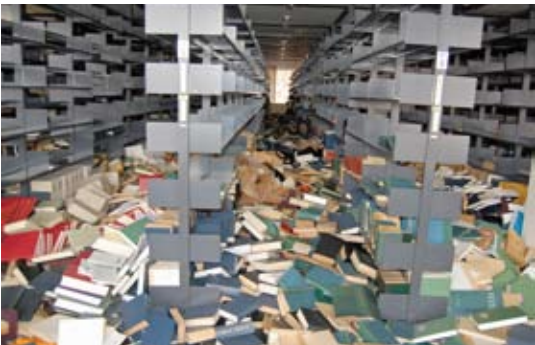
仙台市内の5つのキャンパスは、津波の被害はなかった。

東北大学の被害状況

学内の施設や設備等については、壁が剥がれ落ちたり、研究機材等の破損等深刻な被害を受けたものもありますが、キャンパス内の安全性は確保されていたため、学生や職員等の人的被害はありませんでした。後に行った危険度判定調査では、全体の9割の建物の安全が確認されています。



壁が剥がれ落ちた研究棟 (川内キャンパス)



図書が散乱した附属図書館 (川内キャンパス)



研究機材にも被災があった (片平キャンパス)



建物の1割に甚大な被災があった (青葉山キャンパス)

東北大学の復旧状況

震災で被災した状況に対しては、学内既存施設や設備の共用を図ることで対応しております。また、国に対しても予算措置及び弾力的執行制度を要求し、本来の教育・環境に戻すだけでなく、これまで以上の教育・研究機関として飛躍し続けています。

2011年5月6日には、震災の影響で延期されていた入学式が各学部において挙行されました。5月9日からは授業も開始され、各キャンパスにおいては、講義、ゼミ、実習等が平常どおり行われています。また、サークル活動も活発に行われ、震災前と変わらない明るいキャンパスに戻っています。



各学部、研究科毎に行われた入学式



講義も平常どおり行われている



活発に行われているサークル活動



熱心の実習を行う学生

3月11日の東日本大震災後、東北大学の教育・研究等について地震、津波及び放射能の影響等に関する誤った風評が見受けられます。

このような風評を払拭し、本学の教育力、研究力、そして社会貢献力を更に大きく飛躍させて、世界リーディング・ユニバーシティとして人類社会に貢献していく本学の役目を国内外に示すため、7月1日から復興広報キャンペーンを全学で展開し、公式



ロゴマークを制定するなど様々なコンテンツによりアピールしております。